

2021年度 倫理応用 シラバス

「倫理」	単位数 2単位	学科 普通科	学年・学級 第3学年1,2,3組 文系選択Ⅱ	担当	澤岬良子 印
-------------	----------------	---------------	----------------------------------	----	--------

1 学習の到達目標

学習の到達目標	1. 先哲の思想を知識として学ぶのではなく、人間の存在や価値などについて思索し、人生観・世界観・価値観などを形成し、自己の人格形成に努める実践的態度を育成する。 2. 生徒の個性を發揮・伸張させるとともに、平和で民主的な社会の実現に寄与する態度を育成する。 3. 生徒の当面する課題などを中心に、先哲の考え方を学び、自己の課題を積極的に解決していくための課題解決能力を育てる。
使用教科書・副教材等	高等学校 新訂版 倫理 第一学習社 テオリア 最新 倫理資料集 第一学習社

評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断	主体的・協働	知識・理解
・人間尊重の精神と自己形成への関心を高めており、人格形成や自己形成の確立に努める実践的意欲を持っている。 ・倫理的な諸課題についての探究的な態度を身につけ、人間としての在り方生き方への自覚を深めようとしている。	・自己の確立について広く課題を発見し、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に探究しようとしている。 ・良識ある公民としての広い視野に立つことで、主体的かつ公正な判断をしている。	・自己形成や人間としての在り方生き方に関して様々な資料を収集・整理することで、情報を主体的に選択している。 ・諸資料を自己形成のために主体的に活用し、追究した内容などを様々な方法で適切に表現している。	・青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関した基本的な事柄を自己の確立の課題として理解している。 ・さらに、自己の人格形成のために生かす知識を身に付けている。

2 学習指導計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	月	学習内容 (教科書の構成)	学習のねらい	評価の観点				考查範囲	備考(学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習時間・特別活動等との関連等)
				欲・関心・態度	断	思考・判断	主体的・協働		
第1学期	4	第3章 国際社会に生きる日本人としての自覚 第1節 日本人の風土と伝統 第2節 外来思想の受容	・古代日本人のものの考え方を精神風土との関係でとらえさせるとともに、宗教観・倫理観などについて考えさせる。 ・外来思想である仏教・儒教の受容、日本的仏教の特色、仏教と日本人の思想形成との関わり、無常観・美意識・武士道などにおける特色をとらえさせる。	○	○	○	○	第1学期期末考查	・「日本史A」「日本史B」などの文化学習を踏まえながらも、それとの違いに注意する。 ・地域における独自性のある教材も利用するようにする。「総合的な学習の時間」とも関連していることから、地域学習との関連性をはかる。
	5	①日本仏教の展開							
	6	②日本儒学の展開							
7	第3節 町人意識の目覚めと庶民思想 ①義理と人情 ②国学の成立 ③庶民の思想 ④伝統思想の成熟								

2 学 期	9	第4節 西洋思想との出会い ①幕末の思想 ②明治の啓蒙思想 ③日本社会とキリスト教 ④社会思想の展開 ⑤近代的自我の確立 ⑥近代日本の思想課題 ○世界に生きる日本人と伝統	<ul style="list-style-type: none"> ・儒教の日本的展開や国学、庶民の思想、農民の思想、幕末の思想、西洋文化との接触などについて理解させる。 ・西洋文化との接触後、啓蒙思想、自由民権思想、国家意識、キリスト教と近代日本などの日本人の思想形成を理解させる。 ・文学の世界においても、日本人の思想形成がどのようなものであったか、さらに明治から大正までの思想としてどのようなものがあったかをとらえさせる。 ・西洋思想を主体的に摂取する中で、独創的な思想が形成されるようになるが、その内容について理解させる。 ・主体的に生きる人間として国際社会における役割と責任を果たす日本人としての自覚を形成させる。 ・日本思想の中の間観について考察させる。 	○	○	○	○	学 年 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・偏狭で排他的な考え方(エスノセントリズム)などにならないように配慮する。 ・西洋近代思想とも関連することに注意する。 ・「資料集」をできるだけ使用する。 ・「倫理ワークノート」等を使用して内容の整理を行う。
	10								
【課題・提出物等】 <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間プリント提出する。單元ごとに、課題をあたえ小問題テストを実施する。 ・センター試験対策として、過去問などを解かせていく。 									
【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・評価については、考査のみで評価するのではなく、総合的・観点別の評価などを導入する。例えば、考査評価を70%とし、レポート%、課題・提出物の仕上がり状況を20%、單元ごとのミニテストを10%とする割合で評価していく(評価の観点のポイントが4つある点を考慮する)。 									
【年間の学習状況の評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・各学期の評定をもとに、1年間の生徒の活動を評価に入れる。その際、各学期ごとに4つの評価基準があるが、この内容を踏まえた評価となるように配慮する。 									